

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(1階、2階、3階)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	平成25年3月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouyuu_detail_2010_022_kami=true&JigyosyoCd=2271100923-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3ユニットあるが、スタッフの皆さんには、一人の入居者様を各階スタッフ皆でみていくようにするという事を繰り返し伝えていきます。明るく、楽しく生活を出来る様、出来ることに関しては継続をしていっていただき、出来ないことに関しても、どこまでスタッフが援助をすれば出来るのか見極めるようにしています。行っていただいた行為に関してスタッフは、感謝の気持ちをしつかりと伝え、御利用者様にここにいてもいいんだという気持ちを持っていただき、居場所作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

沼津駅から車で10分ほどの、店舗が立ち並ぶ利便性の高い住宅街に事業所があります。玄関にはウエルカムボードとして「本日の献立」が掲示され、またエコ活動の一環として取り組んでいる回収箱も目を惹きます。1階から3階までの各ユニットにも玄関と見紛うウエルカム棚が設置され、職員のサービス精神の高さが覗えます。3階には「今日の出来事」「本日の献立」をしたため掲示する利用者もいて、「気づきを築き、常に入居者様の立場に立ったケアを目指す」という理念が着実に浸透していることを随所に視認しました。管理者は「みなで考えることが大切」としていて、若いながら27名の利用者の安寧を図るべく、職員へのフォローアップを發揮しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時などに運営理念の唱和をしている。またそれをスタッフと共有している実践出来る様にしている。	リーダー研修では理念について学習する機会があり、また法人本部での研修でもクレドについて学び、事業所内で共有化しています。「小さな気づきに対応することが大きな理念につながる」と管理者は考えており、職員の気づきを大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の夏祭りなどに参加し、交流をふかめている	ペットボトルのキャップと牛乳パックの回収に取り組んでいます。家族向けの「はまかぜ通信」を通じて口コミで拡がり、累計で8万4千個余の集まりがあり、ワクチン105人分が途上国に提供されています。尺八、マジック、手話などのボランティア訪問も頻回にあり、1階・2階の利用者も3階に集まります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1ヶ月に1度運営推進会議を開き地域の方々へ理解してもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃に様子や施設などの取り組みを写真を使い説明報告し意見などを得ている。	家族と利用者が中心となっていて、「はまかぜ通信」に掲載できる写真点数に限られる為、たくさんあるグッドショットを披露する機会にもなっています。隔月開催できていますが、行政や地域住民の参加が叶っておらず、参加者数が伸び悩んでいることが課題です。	運営推進会議開催にあたり、工夫を試みる一環として、次の2点を期待します。①グループホーム連絡協議会のメンバーとのバーター参加 ②家族会を独立させる(または運営推進会議終了後の開催とする)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度介護相談員の受け入れを行っている。	運営推進会議の案内及び議事録を市と地域包括支援センターに届けていますが、結果にはつながっていません。介護相談員を受け入れていて、行政を交えての話し合いの場にも参加し、連携を努めています。グループホーム連絡協議会では研修委員長を2年務め、研修開催にあたり市と協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で身体拘束について勉強し、日頃より身体拘束をしないように努めている。	身体拘束ゼロ宣言をおこなっています。「お出かけしましょうか」と職員から声を掛け、その声に応えて仲良く手をつないでいそいそと散歩に出かける利用者を視認しました。介護の知識が足りないと思える職員もいますが、総じて「利用者の立場にたったケア」に取り組んでいることは充分認めます	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を会議などで深め、虐待をしないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に青年後見人制度はないが、今後のために会議や研修を通じて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等を行う際には、家族への十分な説明を行い、1つ1つ理解して頂ける様に努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートなどを通じて意見や要望を言いやすい環境を設け運営に反映させている。	運営推進会議への家族の参加率も高く、普段から忌憚のない意見をもらえています。法人で年1回取り組む家族アンケートの結果を見直し改善につなげていて、これまでも清掃や献立掲示など実現継続できています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員の全体会議を行っている。そこで積極的に意見を交換し反映させている。	年2回個人面談を実施しています。面談はヒヤリング的な要素も含まれ、運営に対する意見を聞いたり、職員の目標を再確認する場としても役立っています。目隠しカーテンや掲示物などインテリアへの取り組みをみる限り、職員が自由闊達に進言できていることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見はどんな事でも耳を傾け、意見を言いやすく、又、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修及び職員が外部の研修においても、積極的に参加して頂けるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度、GH連絡協議会やホーム見学などを通じて交流を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、御家族様から今の状況を聞かせていただき、御本人様と話しをして理解していただき、安心出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、御家族様の話しを良く聞き、御家族様が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に御家族様から要望や今の状況を聞き、計画書を作成し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとり皆さん経験の豊かな方々であり、良く理解をし、尊敬の念を持って接していくことに気をつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に共同生活をしているという気持ちを持って御家族様の絆を大切にしつつ支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等がいつでも自由にホームに来ていただけるよう努力しています。	家族との関係継続を意識していて、毎月「はまかぜ通信」を届けているほか、お孫さん用のスリッパも備えています。家族の面会は多く、毎日訪問する人もいます。喫煙を続ける人には職員が付添う時間をつくっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いを大切に、レクリエーションや会話を楽しんでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も御家族様から連絡相談を受けた時には応えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から御利用者様の思いを汲み取ったり、理解する事に努めている。	「職員全員で27名みるんだよ」との管理者の掛け声を反映し、本年はアセスメントをとり直しています。とり直したことで散歩が増え、結果として受診回数が減るなど好転した例もあります。また、アセスメントをとることであらためて利用者と膝詰の時間がもてたことも現場の質の向上につながりました	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式の暮らしの情報を記入して頂き、なじみの暮らしを継続できるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態を確認・把握し、カンファレンス時職員同士情報・意見の交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様のニーズに沿ったものかケアマネージャー、介護職員・御家族様と相談検討し、御本人様の意向など話し合い介護サービス計画書を作成している。	各階に計画作成担当者かいて、監修をケアマネージャーがおこなう形でプラン化されています。「ケアプランチェック表」を利用者ごとに毎日職員が記入することで、プランの達成状況が一目でわかるようになっていきます。からだのチェック表とともに日頃の様子も確認とりながら家族と合意形成しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御利用者様の身体状況や日常生活の過ごし方、日々の様子を個々に記録し、情報を共有して検討しながらケアプランやモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の会話の中から真のニーズを見極めながら、御本人様の希望を聞き、サービスに取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事にはボランティアの協力を頂き、楽しんで頂ける様にしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様の希望を取り入れ、主治医を決めて適切な医療を受けられる様に支援している。	月2回往診のある協力医がおり、大半の利用者がかかりつけ医から変更しています。受診支援は原則家族ですが、日常の心身状態を把握できているのは職員のため、家族に同行することも少なくありません。看護師の来訪が週2回あり、24時間オンコールが可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週2回来設し、健康管理を行っている。異常がある場合はその旨を受診時主治医に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にスムーズに事が進むように、日頃から病院関係者との連絡を密にして、関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルを把握し、それに添って対応している。	重度化への対応は困難で、看取りまではおこなえないとの方針について契約時に説明し、書面での合意も得ています。緊急時への備えとして、協力医や看護師との24時間の連絡体制を備えており、緊急時対応マニュアルも用意があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練や防災対策を行っている。定例会にて定期的に話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、万が一に備えている。しかし、地域の方の参加がほとんどないので、課題であると思う。	防火管理者の選任、防災対象物品など消防法8条に係る点のほか、17条の報知器など設備点検など法令に適合していることは、消防署の立入検査でも認められています。本年は消防署の指導から津波に対する訓練を2回おこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様1人1人を尊重し、言葉遣いや対応には注意している。	接遇については、居室の出入りは不在でも「失礼します」と声をかけよう、「作業中でも来訪者には一旦手をとめて挨拶しよう、など、昨年末から具体的に取り組み、職員にも変化がみられているとのこと。他にも、内気で話辛そうな人には居室で職員がマンツーマンで会話をもつなどの配慮をしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に会話の中で御本人様の思いや希望を受け止め御自分の意思を伝達できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個々の希望に沿った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ビューティーヘルパーが来設していただいて散髪している。その人らしいおしゃれが出来るように声掛け見守りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の特別メニューがあり、楽しみにされている。個々のレベルに合った手伝いをスタッフと一緒にやっている。	玄関にはウエルカムボードとしてメニューが掲示されています。またユニットには利用者の筆による「1日の献立、もあり、食事を話材とする工夫がみられます。調理は1階の厨房で作っていますが、ご飯の炊ける香りや音も体感してもらえるように、炊飯器は共用空間に置かれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、水分不足にならない様に毎食汁物をつけ個々の状態に合った量の調節をし、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各居室内に洗面台が設置してあるので、口腔ケアを行っています。御自分で出来ないご利用者様に関しては、毎食後に声掛けや介助をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗の無いよう前もって声かけ誘導している。また、チェック表を併用し、排泄パターンをスタッフ間で共有している。	排泄チェック表をつけており、自立の利用者も「でたよ」と協力してくれています。チェック表に基づき、時間に継続性がみられる場合は先取りの声掛けをすることもあります。尿路感染など健康管理にも活かしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便チェック表に便の量、状態などを記入し、排便の無い場合には牛乳をお出ししたり、主治医看護師と連携し、内服薬の調査を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフ間で連携を取り、午後だけでなく、午前中も入浴を可能にしている。また御入居者様の希望に合わせ、毎日でも入浴する事が出来る。	2階と3階には2つ浴室がありますが、馴染んだ浴室でないと危険があるため、主に1つに絞って使用しています。月～金に湯をはり、週に3日をめやすとしています。希望があれば連続して入浴することもできます。お湯の温度は好みがあるため、本人に確認しつつ調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御入居者様の思いを尊重し、休息したい時にはいつでも居室にて休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際はきちんと手渡し、飲み込み確認を行い、服用による変化の確認を日々行っている。また、服用されている薬の目的・用量を会議や変更時に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの得意な分野(料理・洗濯・掃除など)において、御自分の役割を見出して頂き、張りのある生活を送れるように支援している。また、毎月季節ごとの行事や外出を企画し、気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	雨天等の悪天候の日以外は毎日外に散歩に行き、外気浴をしている。また、買い物にもなるべく一緒に出かけるようにしている。	天気の良い日の午前中は散歩が日課で、近所からは「また会ったね」と声がかかるほどです。長岡の足湯に弁当持参でドライブ外出することもあります。3階までであることを大いに活かし、映画スターや皇室の写真掲示を眺めながら歩行訓練をおこなう「昭和想ひ出ツアー」も好評です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で金銭管理のできる方には影響の及ばない程度の所持金は持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はすべて入居者様にお渡しし、返事を書かれた場合は住所等、不備のない事を確認し、一緒にポストへ投函しに行く等している。また、要望があればスタッフ付き添いのもと、電話をかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけを行い、ホーム内においても季節感を感じられるようにしている。また、室内の温度にも気を配り、御入居者様に快適に過ごして頂いている。	1階は厨房があるため居間がやや狭くなっていますが、代わりに調理の匂いが流れてきたり、近所の生活音が届くなど、一般家庭に近い環境にあります。「寄り添い」をテーマとしていて、食事のテーブルもいくつかに分かれ、ソファも置かれ、居場所づくりが成されていることを視認しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂を共有空間として確保し、利用者様同士でのコミュニケーションを取れる場所としている。また、お独りで過ごされたい方は居室にて自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規で御入居される場合、なるべく御本人が実際に使用されていた家具や道具をお持ち頂けるよう説明をいっている。	カーテンは家族購入ですが、法人内に福祉貸与の事業もあることから、様々なアイテムから選んでもらうことができていて、その人らしい風合いのカーテンに仕立てられています。居室前には職員手製のプリント柄のオブジェが表札となって揺れていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全て段差の無いバリアフリーになっており、また全ての所に手すりを取り付けてある。個々の残存機能を把握し、全てをスタッフが手伝ってしまわず、出来る事は御自分でやって頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や会議の際に管理者、職員とで唱和をし実践に繋がられるようにしている。	リーダー研修では理念について学習する機会があり、また法人本部での研修でもクレドについて学び、事業所内で共有化しています。「小さな気づきに対応することが大きな理念につながる」と管理者は考えており、職員の気づきを大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(お祭り、防災訓練、地域清掃)に参加し交流に努めている。	ペットボトルのキャップと牛乳パックの回収に取り組んでいます。家族向けの「はまかぜ通信」を通じて口コミで拡がり、累計で8万4千個余の集まりがあり、ワクチン105人分が途上国に提供されています。尺八、マジック、手話などのボランティア訪問も頻回にあり、1階・2階の利用者も3階に集まります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2カ月に1回運営推進会議を通じ呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見をサービスの向上に向け活かしていけるように出た意見を会議等で取り上げ話し合う場を設けるようにしている。	家族と利用者が中心となっていて、「はまかぜ通信」に掲載できる写真点数に限られる為、たくさんあるグッドショットを披露する機会にもなっています。隔月開催できていますが、行政や地域住民の参加が叶っておらず、参加者数が伸び悩んでいることが課題です。	運営推進会議開催にあたり、工夫を試みる一環として、次の2点を期待します。①グループホーム連絡協議会のメンバーとのバーター参加 ②家族会を独立させる(または運営推進会議終了後の開催とする)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの担当者が取り組んでいる。	運営推進会議の案内及び議事録を市と地域包括支援センターに届けていますが、結果にはつながっていません。介護相談員を受け入れていて、行政を交えての話し合いの場にも参加し、連携を努めています。グループホーム連絡協議会では研修委員長を2年務め、研修開催にあたり市と協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などでスタッフに理解をして頂ける場をもち身体拘束の無いケアを継続し行っている。	身体拘束ゼロ宣言をおこなっています。「お出かけしましょうか」と職員から声を掛け、その声に呼応して仲良く手をつないでいそいそと散歩に出かける利用者を視認しました。介護の知識が足りないと思える職員もいますが、総じて「利用者の立場にたったケア」に取り組んでいることは充分認めます	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議やフロア一会議を定期的に行っていく中で話し合い、考えながら注意を払い防止出来る様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員までには周知出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム担当者が行っています。またそれ以外でも対応出来るように必要時には時間を設け説明を行い安心して頂ける様対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に置いてある意見箱や年に1回家族へ送る家族アンケートで意見や要望を出して頂ける様に機会を設けさせて頂いている。	運営推進会議への家族の参加率も高く、普段から忌憚のない意見をもらえています。法人で年1回取り組む家族アンケートの結果を見直し改善につなげていて、これまでも清掃や献立掲示など実現継続できています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回職員全員と話す機会を設けている。また随時それ以外でも聞く機会を設け反映できるように努めている。	年2回個人面談を実施しています。面談はヒヤリング的な要素も含まれ、運営に対する意見を聞いたり、職員の目標を再確認する場としても役立てています。目隠しカーテンや掲示物などインテリアへの取り組みをみる限り、職員が自由闊達に進言できていることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回自己評価を行い一人ひとりと管理者が話す機会を設け各自に課題や向上をもって働いて頂ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに応じた研修の声掛けを行い提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連絡会や交流の場において勉強会などサービスの質を向上できる取り組みを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、御本人様や御家族の要望にしっかりと耳を傾けるよう努め初期より不安の毎生活を送れる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、家族の言葉にもしっかりと耳を傾けコミュニケーションを取ることで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に御家族や御本人の要望を聞き必要によっては他のサービス利用も含めたサービス計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に生活する中で生活リハビリなどを通じてお互い感謝し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の気持ちを大切にしながらコミュニケーションを取り合い共に本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が面会に来やすい環境作りに努めている。	家族との関係継続を意識していて、毎月「はまかぜ通信」を届けているほか、お孫さん用のスリッパも備えています。家族の面会は多く、毎日訪問する人もいます。喫煙を続ける人には職員が付添う時間をつくっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを大切にし、時にはスタッフが間に入りながら関わり支えあう支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や普段の生活の中から、意向を把握していくよう心掛けていく。	「職員全員で27名みるんだよ」との管理者の掛け声を反映し、本年はアセスメントをとり直しています。とり直したことで散歩が増え、結果として受診回数が減るなど好転した例もあります。また、アセスメントをとることであらためて利用者と膝詰の時間がもてたことも現場の質の向上につながりました	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、場合によっては御家族の話を聞きこれまでの暮らしを把握出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア日報や介護記録で情報を共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の言葉を参考にしながら、会議で皆の情報を出し合い、介護計画を作成している。	各階に計画作成担当者かいて、監修をケアマネージャーがおこなう形でプラン化されています。「ケアプランチェック表」を利用者ごとに毎日職員が記入することで、プランの達成状況が一目でわかるようになっていきます。からだのチェック表とともに日頃の様子も確認とりながら家族と合意形成しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を皆で読み合い、それについて話し合ったりしながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	形式にとらわれずその時々ニーズに合わせ柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節のボランティアに協力して頂き季節の行事にあった、歌やゲームなど楽しんで頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。また、本人・家族の希望を常に最優先に取り入れている。	月2回往診のある協力医がおり、大半の利用者がかかりつけ医から変更しています。受診支援は原則家族ですが、日常の心身状態を把握できているのは職員のため、家族に同行することも少なくありません。看護師の来訪が週2回あり、24時間オンコールが可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化・異常がある場合は常に看護師に相談し適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供をし安じて治療して頂き、看護師と情報交換に努め早期に退院出来る様行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その入居者様の状態に応じその都度家族にスタッフや医師と連携をとっている。	重度化への対応は困難で、看取りまではおこなえないとの方針について契約時に説明し、書面での合意も得ています。緊急時への備えとして、協力医や看護師との24時間の連絡体制を備えており、緊急時対応マニュアルも用意があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習、研修を定期的に行っている。また緊急時の対応マニュアルを常に各フロアに置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している自治体と協力体制をとっている。	防火管理者の選任、防災対象物品など消防法8条に係る点のほか、17条の報知器など設備点検など法令に適合していることは、消防署の立入検査でも認められています。本年は消防署の指導から津波に対する訓練を2回おこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し目を合わせて会話をし訪問時にはノック、声掛け後入室するよう心掛けている。	接遇については、居室の出入りは不在でも「失礼します」と声をかけよう、「作業中でも来訪者には一旦手をとめて挨拶しよう、など、昨年末から具体的に取り組み、職員にも変化がみられているとのこと。他にも、内気で話辛そうな人には居室で職員がマンツーマンで会話をもちなどの配慮をしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情、行動、言葉に気を配り御自分の意思の表出や行動の援助をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ間で利用者の情報を密にし一人ひとりの状態を把握し、個々の希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ビューティーヘルパー(美容院、化粧)が来設しその人らしいおしゃれが出来る様に声掛け見守りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度の調理レクレーションを行い利用者に希望のメニューを出してもらったり個々のレベルに応じた手伝いをして頂いている。	玄関にはウエルカムボードとしてメニューが掲示されています。またユニットには利用者の筆による「1日の献立、もあり、食事を話材とする工夫がみられます。調理は1階の厨房で作っていますが、ご飯の炊ける香りや音も体感してもらえるように、炊飯器は共用空間に置かれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食栄養バランスのとれた献立に基づき調理者によって一人ひとりの状態にあった食事形態にて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各居室に洗面台を設置してあり口腔ケアをしている。自分で出来ない方はリビングの洗面台にて毎食後声掛け及び介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での誘導、排泄チェック表のもとその人にあった自然なトイレの促がしを提供できる様に対応を心掛けている。	排泄チェック表をつけており、自立の利用者も「でたよ」と協力してくれています。チェック表に基づき、時間に継続性がみられる場合は先取りの声掛けをすることもあります。尿路感染など健康管理にも活かしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や飲食の工夫に日々働きかけ個々に応じた対応が出来るように取り組んでいる。場合によっては看護師に相談し便秘される事が無い様に予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴する事はでき希望者は毎日入浴されることも出来る。時間帯においては今後も課題となっていくが基本入浴はゆっくり楽しみながら入浴して頂けるように努めている。	2階と3階には2つ浴室がありますが、馴染んだ浴室でないと危険があるため、主に1つに絞って使用しています。月～金に湯をはり、週に3日をめやすとしています。希望があれば連続して入浴することもできます。お湯の温度は好みがあるため、本人に確認しつつ調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の思いを尊重し御本人の様子に合わせ休みたい時は居室で休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬、管理表に添って用量、目的等を記入して把握し手渡し飲み込むまでの確認や変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な役割を活かし物づくりや楽しい時間を提供し張りあいや気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日にはその人その人にあつた楽しい散歩の促がしが出来るように支援している。又家族との外出においても家族に協力してもらいながら出掛けられている。	天気のよい日の午前には散歩が日課で、近所からは「また会ったね」と声がかかるほどです。長岡の足湯に弁当持参でドライブ外出することもあります。3階までであることを大いに活かし、映画スターや皇室の写真掲示を眺めながら歩行訓練をおこなう「昭和想ひ出ツアー」も好評です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金においてはホームでの管理となってしまっているが、人によってはお金を御自分で所持してもらっていたり使えるように家族の了承のもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によっては必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって不快の無い場となるように日々配慮し居心地良く過ごせるよう努めている。	2階では「笑い」をテーマとしていて、2つある浴室の前にも「松の湯」「富士の湯」とユニークな案内簾が掛けていました。外出やイベントの際に利用者の笑顔あふれる写真が掲示されています。換気がまめにおこなわれていて、気持ちのよい空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々のお気持ちにあった空間で過ごして頂ける様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅で今まで使っていた物を持って来てもらったり暮らしやすい環境で過ごして頂ける様本人や家族と相談をしている。	本人の希望に添って、居室ドアに長めの暖簾が掛っている部屋もあります。カーテンは家族購入ですが、法人内に福祉貸与の事業もあることから、様々なアイテムから選んでもらうことができている、その人らしい風合いのカーテンに仕立てられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は御本人様に行って頂き自立した生活が送れる様支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を設け、その理念を目指して日々のケアに取り組んでいる。また、朝礼の際に唱和し、各スタッフが共有できるようにしている。	リーダー研修では理念について学習する機会があり、また法人本部での研修でもクレドについて学び、事業所内で共有化しています。「小さな気づきに対応することが大きな理念につながる」と管理者は考えており、職員の気づきを大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる防災訓練や祭りに参加し、交流をするようにしている。	ペットボトルのキャップと牛乳パックの回収に取り組んでいます。家族向けの「はまかぜ通信」を通じて口コミで拡がり、累計で8万4千個余の集まりがあり、ワクチン105人分が途上国に提供されています。尺八、マジック、手話などのボランティア訪問も頻回にあり、1階・2階の利用者も3階に集まります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の方も参加をしていただき、その中で認知症についての理解を深められるように、勉強の時間も設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者様の日頃の様子を写真に撮ったものをプロジェクターを使用してご家族様に伝えている。質問の時間を設けて出た意見をサービス向上に努めている。	家族と利用者が中心となっていて、「はまかぜ通信」に掲載できる写真点数に限られる為、たくさんあるグッドショットを披露する機会にもなっています。隔月開催できていますが、行政や地域住民の参加が叶っておらず、参加者数が伸び悩んでいることが課題です。	運営推進会議開催にあたり、工夫を試みる一環として、次の2点を期待します。①グループホーム連絡協議会のメンバーとのバーター参加 ②家族会を独立させる(または運営推進会議終了後の開催とする)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加の声掛けを行っている。介護相談員を1ヶ月に1回受け入れ、客観的な視点でサービスを見て頂いている。	運営推進会議の案内及び議事録を市と地域包括支援センターに届けていますが、結果にはつながっていません。介護相談員を受け入れて、行政を交えての話し合いの場にも参加し、連携を努めています。グループホーム連絡協議会では研修委員長を2年務め、研修開催にあたり市と協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で身体拘束についての研修を行い、知識を深めるとともに、日頃より身体拘束をしないケアを目指している。	身体拘束ゼロ宣言をおこなっています。「お出かけしましょうか」と職員から声を掛け、その声に呼応して仲良く手をつないでいそいそと散歩に出かける利用者を視認しました。介護の知識が足りないと思える職員もいますが、総じて「利用者の立場にたったケア」に取り組んでいることは充分観えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての情報を集め、今後のケアに活かせるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を使用している方はいないものの、今後は使用する方が出るかもしれないので、知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を確保し、契約時もわかりやすい説明ができるよう努め、質問も随時受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様アンケートを実施し、意見を伺い、今後の運営やケアに活かせるようにしている。	運営推進会議への家族の参加率も高く、普段から忌憚のない意見をもらえています。法人で年1回取り組む家族アンケートの結果を見直し改善につなげていて、これまでも清掃や献立掲示など実現継続できています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の職員向けのアンケートを行い、スタッフから意見を聞き、運営に活かせるようにしている。	年2回個人面談を実施しています。面談はヒヤリング的な要素も含まれ、運営に対する意見を聞いたり、職員の目標を再確認する場としても役立っています。目隠しカーテンや掲示物などインテリアへの取り組みをみる限り、職員が自由闊達に進言できていることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートを行った際、各スタッフと面接の時間を設けて、職員が向上心を持って働ける職場環境を作れるように目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員に対しては、マニュアルを作成して入職をしてからもしっかりと目標を定め、その目標をリーダーや管理者も把握し、達成できるように共通認識のもと日々の業務に向かっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修委員長という立場から他のホームと協力をして研修を主催し、研修に出来るだけ多くのスタッフが参加出来るようにして知識の取得に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居をしてしばらくはご本人様の傍に寄り添い、スタッフとの顔なじみの関係を作っている、利用者様が入居をする前の生活リズムを継続できるよう、スタッフ間で情報を共有している。また、御家族様にも情報の提供を依頼している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の問い合わせがあった時点から、会話をする機会を多く持ち、困っていることや不安に思っていることを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人と御家族様が何をホームに対して望んでいるか伺い、サービス計画書を作成した時に共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントをした際に利用者様がどこまで出来るかを把握するようにし、スタッフのケアがどこまで必要かを見極め、出来るという達成感をたくさん感じていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子を御家族様に伝え、スタッフとの信頼関係が築けるように努めている。行事にも積極的に参加していただけるように声を掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前はもちろんのこと、入居されてからも御本人様が大切にされてきた人や場所を探り、会えるようにしたり、行ったり出来るようにし、関係を絶たないようにしている。	家族との関係継続を意識していて、毎月「はまかぜ通信」を届けているほか、お孫さん用のスリッパも備えています。家族の面会は多く、毎日訪問する人もいます。喫煙を続ける人には職員が付添う時間をつくっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性をスタッフは把握し、同じフロアばかりではなく、他のフロアも含め、ご利用者様が孤立しないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてフォローし、相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントの際や入居されてからの日々の会話の中から希望や意向については聞いている。困難な場合は関わりの中で小さな変化も見逃さないようにし、常に入居者様の視点に立つようにしている。	「職員全員で27名みるんだよ」との管理者の掛け声を反映し、本年はアセスメントをとり直しています。とり直したことで散歩が増え、結果として受診回数が減るなど好転した例もあります。また、アセスメントをとることであらためて利用者と膝詰の時間がもてたことも現場の質の向上につながりました	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい生活の継続を目指し、生活歴について御家族様にも協力していただき、情報を提供していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議中にスタッフ同士の意見交換を行い、利用者様の情報の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居している階のスタッフではなく、他の階のスタッフ、厨房スタッフ、事務スタッフとすべてのスタッフが意見を出し合い、現状に即したケアプランを作成している。	各階に計画作成担当者かいて、監修をケアマネージャーがおこなう形でプラン化されています。「ケアプランチェック表」を利用者ごとに毎日職員が記入することで、プランの達成状況が一目でわかるようになっていきます。からだのチェック表とともに日頃の様子も確認とりながら家族と合意形成しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の築きをケア日報に記入をして、介護記録にも記入していき、その情報をもとにケアカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様からの希望をしっかりと受け止め、柔軟にサービスを提供できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方とも連絡を密に取り、定期的にホームに来ていただき、御利用者様と楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族様の医療に対する希望を聞き、かかりつけ医を選定して適切な医療を受けられるようにしている。	月2回往診のある協力医がおり、大半の利用者がかかりつけ医から変更しています。受診支援は原則家族ですが、日常の心身状態を把握できているのは職員のため、家族に同行することも少なくありません。看護師の来訪が週2回あり、24時間オンコールが可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、24時間連絡体制を整えていて、指示を受けられるようにしている。何か気付いたことに関しては、看護師に相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護サマリーを作成し、現在の情報を医療機関に伝え、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し、入居の際に説明をする時間を設けて、疑問に思われることに関しては、質問に答えている。	重度化への対応は困難で、看取りまではおこなえないとの方針について契約時に説明し、書面での合意も得ています。緊急時への備えとして、協力医や看護師との24時間の連絡体制を備えており、緊急時対応マニュアルも用意があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、各スタッフ周知出来るよう、フロアに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行い、避難できる方法を職員は身に付けるとしている。地域との協力体制については、今後今まで以上に強固なものにしていけないと思えます。	防火管理者の選任、防災対象物品など消防法8条に係る点のほか、17条の報知器など設備点検など法令に適合していることは、消防署の立入検査でも認められています。本年は消防署の指導から津波に対する訓練を2回おこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応を心がけている。	接遇については、居室の出入りは不在でも「失礼します」と声をかけよう、「作業中でも来訪者には一旦手をとめて挨拶しよう、など、昨年末から具体的に取り組み、職員にも変化がみられているとのこと。他にも、内気で話辛そうな人には居室で職員がマンツーマンで会話をもつなどの配慮をしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中から、御入居者様の希望や要望を聞き、出来る限り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切に、スタッフが業務優先にならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の希望を聞き、身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。資生堂のビューティーボランティアの方に定期的にホームに来ていただいて化粧を楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が少しでも楽しくなるように、スタッフはゆったりとした時間の提供に努め、楽しい雰囲気作りを目指している。また、副食も用意をして、食習慣を継続出来る様にしている。	玄関にはウエルカムボードとしてメニューが掲示されています。またユニットには利用者の筆による「1日の献立、もあり、食事を話材とする工夫がみられます。調理は1階の厨房で作っていますが、ご飯の炊ける香りや音も体感してもらえるように、炊飯器は共用空間に置かれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成して、食事量や水分量を管理をしている。食習慣についても、なるべく御本人様の気持ちを大切にしようとしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各入居者様の機能に応じた口腔ケアをする様にして、口腔内の清潔に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人様の状態に合わせた排泄用品の選定をしている。なるべく、自立に向けたケアを目指している。	排泄チェック表をつけており、自立の利用者も「でたよ」と、協力してくれています。チェック表に基づき、時間に継続性がみられる場合は先取りの声掛けをすることもあります。尿路感染など健康管理にも活かしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様各人の便秘の原因を探るようにして、薬に頼らない排泄を目指している。便秘の方には運動や乳製品を摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を限らず、御本人様の希望する入浴時間や入浴方法が出来る様にしている。入浴する際にも、残存機能の活用には常に気を付け、スタッフが手出しをしすぎないようにしている。	2階と3階には2つ浴室がありますが、馴染んだ浴室でないと危険があるため、主に1つに絞って使用しています。月～金に湯をはり、週に3日をめやすとしています。希望があれば連続して入浴することもできます。お湯の温度は好みがあるため、本人に確認しつつ調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけに目を向けるのではなく、日中全体のバランスを考え、日中は体を動かしていただいたりしながら夜間、休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用や用法の把握に努め、服薬の仕方についても、各入居者様に合わせるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に御家族様のセンター方式の用紙を渡し、出来る限り記入して頂き、生活歴の把握に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日、天気が良い日には、外に散歩に行ける様にしている。散歩のコースも何パターンか用意をして、飽きないように努力している。	天気のよい日の午前中は散歩が日課で、近所からは「また会ったね」と声がかかるほどです。長岡の足湯に弁当持参でドライブ外出することもあります。3階までであることを大いに活かし、映画スターや皇室の写真掲示を眺めながら歩行訓練をおこなう「昭和想ひ出ツアー」も好評です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少ない金額なら、御家族様の理解を得てから御本人様に所持金を持っていただいているケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りに関しては、御利用者様から希望が聞かれる際には、随時対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着けるような空間作りを目指し、派手な飾り付けや家具は置かないようにしている。	3階では、「家庭ならそれはないでしょ」という視点を大切にしている、幼稚なものや無機質なものを置かないように心掛けています。「和」をテーマとし、和紙のぼんぼりや木調の表札は職員がこまめに買い揃えていったものだそうです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中での一人ひとりの居場所作りとしては、課題が残っていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御家族様に説明して、自宅で使い慣れているものを入居の際に持ってきていただくようにしている。	ピンクを基調とした愛らしいインテリアや、家族の写真が溢れている部屋もあります。カーテンは家族購入ですが、法人内に福祉貸与の事業もあることから、様々なアイテムから選んでもらうことができている、その人らしい風合いのカーテンに仕立てられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しい入居者様もいらっしゃるので、できることやわかることについては、把握できるように努めている。		